第４回　仙台市総合計画審議会議事録

日　　時　　平成 31 年 3 月 26 日（火）　18：00～20：20
会　　場　　仙台市役所２階　第一委員会室
出席委員　　阿部重樹委員、飯島淳子委員、岩間友希委員、姥浦道生委員、遠藤智栄委員、奥村誠委員、小野寺健委員、折腹実己子委員、柿沼敏万委員、鎌田城行委員、菊地崇良委員、小岩孝子委員、今里織委員、今野彩子委員、今野薫委員、榊原進委員、佐々木綾子委員、菅井茂委員、舘田あゆみ委員、永井幸夫委員、浜知美委員、舟引敏明委員、やしろ美香委員、渡邉浩文委員［24 名］
欠席委員　　阿部一彦委員、遠藤耕太委員、佐藤静委員、庄子真岐委員、竹川隆司委員、中坪千代委員［6 名］
仙　台　市　　福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、
（事務局）　　細井政策企画部長、松田政策企画課長、柳沢政策企画課主幹
議　　事　　１　開会
　　２　議事
　　(1) 平成 30（2018）年度区民参画イベントについて
　　(2) 仙台市総合計画審議会における審議経過について
　　(3) 平成 31（2019）年度　審議会日程について
　　(4) 平成 31（2019）年度　市民向け広報・市民参画事業について
　　(5) その他
　　３　閉会
配付資料　　１　　平成 30（2018）年度　区民参画イベント報告書
　　２－１　都市像とまちづくりを進めるうえで大切にしたい価値観
　　・重点的な取り組みの視点
　　２－２　仙台市総合計画審議会における審議経過（案）
　　３　　平成 31（2019）年度　審議会日程（案）
　　４　　平成 31（2019）年度　市民向け広報・市民参画事業（案）

１　開会

○奥村誠会長

ただいまから「第４回仙台市総合計画審議会」を開会いたします。

議事に入る前に定足数等の確認を行います。事務局から報告をお願いします。

○細井政策企画部長

遅れて出席される委員の方がいらっしゃいますけれども最終的に 24 名出席予定となっておりますので、定足数は満たしているということをご報告申し上げます。

○奥村誠会長

はい。ありがとうございます。次に、会議の公開、非公開の取り扱いですけれども前回

と同様に公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（了承）

○奥村誠会長

ありがとうございます。それでは公開といたします。

続いて本日の議事録署名委員の指名ですけれども、前回は飯島委員にお願いしましたので、名簿順で次の岩間委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

それでは事務局から資料等の確認をお願いいたします。

○細井政策企画部長

お手元に座席表、次第、資料一覧、そして資料１から資料４までそれぞれ置かせていただいております。それから前回の資料と議事録を綴じました青いファイルを置いております。また、過去の資料の量が増えておりますので、前回より過去の資料につきましては、今回から事務局でお預かりをしております。ご覧になりたいときには会の途中でも結構ですので挙手にてお伝えいただければお席までお持ちいたしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

それから参考資料といたしまして、審議会資料とは別に「仙台市経済成長戦略 2023」、「仙台市交流人口ビジネス活性化戦略」、この２つを机の上に置かせていただいております。

経済と観光分野につきまして、４月よりこの２つの戦略に基づいて取り組みを進めることとなっておりまして、ただいまご審議いただいております新総合計画の策定より少し先行する形になっております。後ほどご高覧いただければと存じます。

２　議事

（1）平成 30（2018）年度　区民参画イベントについて

○奥村誠会長

それでは議事に入りたいと思います。議事の第１「平成 30（2018）年度　区民参画イベントについて」、事務局から報告があるとのことです。説明をお願いします。

○松田政策企画課長

それでは事務局からご説明いたします。次第、資料一覧表をめくっていただきまして、右上に資料１と書いてある「区民参画イベント報告書」に基づきましてご説明いたします。

こちらは、区民参画イベントの報告書でございまして、先月の２月 17 日から３月３日の間に５区が各区ごとに開催した区民参画イベントの概要や参加者数、そして当日いただいたご意見について、各区それぞれ見開き２ページでまとめさせていただいております。

こちらのイベントは総合計画の中の区別計画の策定の参考とするために最初に行いましたもので、各区の魅力の発見や未来の姿に関するご意見を幅広くいただくということを各区共通の目的といたしました。ただ、イベントのテーマ設定や進め方、手法などの具体

的な企画は各区の独自の発案で進めたところでございます。また、各区とも若い方々の参加を考慮いたしまして、イベント開催の発信や周知をしてまいりましたので、全体的に中高生、大学生など若い方々の参画もたくさんいただいたところでございます。

各区の参加者数のところに年代別の参加者数も書いておりますので、後ほどご高覧いただきたいと思います。参加者からのご意見としましては、非常にたくさんのご意見を頂戴しましたけれども、一例を挙げますと、「区の未来の姿や残したいものは何ですか」というところにつきましては、賑わいがあるとか、交通の利便性、また、さまざまな方が集まって交流できるまちなどに関するご意見が比較的、各区共通で挙げられておりまして、この審議会でのご議論と方向性が重なるご意見もたくさんあったところでございます。

また、区の特色が見られるものとしましては、青葉区ではやはり「定禅寺通のケヤキ並木」がご意見として挙がったり、若林区では「新鮮な野菜のブランド化」とか、お寺が多いまちということで「お寺を生かしたまちづくり」など、それぞれの特色に着目した、やはり地元ならではのご意見もたくさん出たところでございます。「未来の区のために何ができるか」というところもご意見を頂戴したのですが、知る・考える、実践する、そして発信するなど多岐にわたってのご意見を頂戴いたしました。

いただきましたご意見は、区別計画の策定に生かしてまいりたいと考えておりまして、現在、区の現状や地域の実情をよく把握している各区役所と、区別計画のイメージ、そしてそれをどんなふうに使っていくかということについて意見交換をしているところでございます。

○奥村誠会長

ありがとうございました。これらのイベントですけれどもファシリテーターやパネリストとして参加いただきました岩間委員さん、小岩委員さん、浜委員さん、大変お疲れ様でございました。区の将来像がどうあるべきか、区民の皆さまがそれぞれ集まって議論していただいたということで大変良かったと思いますし、普段なかなか気が付かないような地元の魅力というのを議論いただいたというふうになったのかなと思っております。

３名の委員さんから感想など一言ずつお願いしたいとします。まずは岩間委員さん、どうでしょうか。

○岩間友希委員

私は若林区を担当しまして、参加者数を心配していたのですけども最後には 93 名、しかも中学生が 47 名と、かなり若い人を中心に集まってくださいました。これは会場をライブハウスに設定したりとか、若林区側の企画の頑張りがすごくあったのですけども、何より若林区の底力というか、地域のポテンシャルというものをすごく感じたところです。参加者の感想は、「そもそも中学生としてあまりまちのことをこんなに真剣に考えることがなかったからいい機会をもらったな」とか、「あまりまちのことを考えたことがなかったから魅力を改めて自分でも見つけることができた」とか、前向きな意見も結構ありまして、私としてもやって良かったなという感想です。

○奥村誠会長

ありがとうございました。小岩委員さん、お願いします。

○小岩孝子委員

私は太白区でお話しさせていただいたのですが、参加者の皆さんは10代、20代、30代といろいろな年代の人がたくさんいて、未来のことをみんな本当に真剣に考えているのだなということを、反対に教えてもらったようなイベントになりました。やっぱり学校と、それから地域と家庭と一緒になりながら、そして子どもたちが元気に過ごすまちができたらいいなという声が多かったことで、来た方からは「とても参考になった」とか、後は「自分たちの地元に帰ってもう１回考えてみよう」とか、そういう意見がたくさん出たので楽しいワークになったなと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございました。浜委員さん、お願いします。

○浜知美委員

私は宮城野区を担当させていただきました。下は小学生からご年配の方まで、本当に活発な議論で、温かい雰囲気で開催できたと思っています。全体的にポジティブな雰囲気で、改めて魅力について気が付いて自分たちで発信しなければいけないというところまで自身で考えられたので本当に良かったと思っています。

小学生の参加者からは、「宮城野区は実は少年野球が強いのですよ」というような、大人が考えもつかなかったような意見が出て、多世代でまちについて話し合うのは本当にいい機会だなと実感しています。これからもこのような会を続けていって、区別の計画もそうなのですけど、総合計画にも少しずつこういう意見を取り入れていければなと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございました。そのほかに一般参加あるいはご来場いただいた委員の方もいらっしゃったと聞いております。ご多忙のところ大変ありがとうございました。

それでは事務局の説明についてご質問ありましたらどうぞ。

どうでしょうか。よろしいでしょうか。

（了承）

○奥村誠会長

今回、それぞれの区の１回目のイベントということでしたけれども、今後に策定していく区別計画のときに、今回の意見を活用していただければというふうに思います。

(2) 仙台市総合計画審議会における審議経過について

○奥村誠会長

それでは議事の第２です。「仙台市総合計画審議会における審議経過」に入ります。

今回の総合計画の審議は、昨年 10 月から始まりまして２年半に及びますので、手戻りはあまりしてはいけないだろうということもあり、審議経過をいったん整理してから、あるところで部会で分けて少し突っ込んだ議論に入りたいと考えました。ですから、今回これまでの議論を少しまとめるという形で作成させていただきました。これまでの進め方は、どちらかというといろいろな視点がある中で、抜けていないかどうか、漏れがないかというようなことでフリートーク中心に審議してまいりましたけれども、それに基づきましてこれまでの皆さんの意見を踏まえながら、事務局と私と相談して作成をしてきております。一応これまでの議論になったことを網羅するような形になっておりますけれども、まだこれはたたき台であって審議経過です。つまり中間の取りまとめではないのです。即ち「ここまで決めました、次これからいきます」というよりは、ここまで確認をしておきまして、後で「やはり忘れていました、やっぱりこれは有用です」という話をしたり、ウエートとかあるいは生かし方とかの議論をしていくための土台だというふうに考えておりますので、よろしくお願いします。この形で完成ということではありません。

まずは、事務局から説明をしていただき、その後ある程度時間を区切りながら審議を進めようと思います。説明をお願いします。

○松田政策企画課長

それではご説明いたします。まず、資料２－１、Ａ３判横の資料をご覧ください。

こちらは前回の審議会からお示しさせていただいている資料ですが、前回のご議論を踏まえまして、加筆修正の上、本日議論の内容をこのような形でまとめております。左側の「都市個性（仙台らしさ、仙台の強み）」ですが、これまでのご議論の中で、「杜の都」「共生」「学び」「活力の都」、この４つにおおむねご意見が集約されてきていたのではないかと思いましたので、いったん本日はこの４つにまとめさせていただきました。

そのさらに上の欄には、赤文字で書かれている部分があります。これまでの議論における本市の都市個性、強みのいわゆる掛け算の考えや、これを市民と共有し、創意工夫、挑戦というワードが出ておりましたので、そういったことを盛り込みながら「新たな杜の都の姿を目指す」という、いわゆる都市像のコンセプトとなるものを赤字の２行でお示しをしております。

その下の中央には「重点的な取り組みの視点」が並んでおります。前回の資料では、６つの視点でお示しをしておりましたが、今回は、全部で７つになっております。上から４つ目に「仙台で育つ～子どもたちのよりよい未来づくり～」が加わっております。理由としましては、前回のご議論の中で、子どもに関するご意見が複数の委員からありました。例えば、家庭や学校、地域の中での子どもの教育についてのご意見であったり、いじめなど仙台市の教育へのマイナスのイメージを払しょくしていかなければならないというご意見、また、昨年 11 月の市民参画イベントの中身に着目いただきまして、市民の意見としては子どもをキーワードにしたご意見がたくさんあるということで、子どもの視点を大切にしていく必要がある、などのご意見があったものでございます。ということで子どもに特化した視点を１つ設けさせていただきました。

右側の「キーワード」の欄は、前回までにいただきましたご意見も踏まえまして修正を重ね、今後の施策を検討していく上での参考となるようなワードを列挙している部分でございます。

続きまして、資料２－２をご覧ください。ただいまご説明いたしました資料２－１を基にしまして、しかし、資料２－１には記載がない細かいご意見についても、これまでのご議論を踏まえて、現時点での議論経過として取りまとめたものでございます。

まず、表紙をご覧いただきたいのですが、この資料の位置付けが明記されております。この「審議経過」の役割は、今ほど会長からもお話がありましたように審議の概要・経過をいったんこういう形でということで、確認をして今後の部会の議論につなげるということにございます。策定期間が今回は２年半と長期になることからもこのような確認がいったん必要になってくるものと思います。ただ、あくまで議論の経過・概要ですので、会長からも話がありましたように今後の議論等に伴いまして修正がなされることもあるというものでございます。

また、このような審議経過を市民の方々にもお示しする機会があればお示しをしまして、市民による幅広い議論の機運醸成にもつながるものではないかというふうに考えております。

それでは１ページをお開きください。「計画策定の考え方」ということで、「１　計画策定へ向けて」というところがあります。冒頭の段落につきましては、第１回でもご議論いただきましたけれども、この計画の策定の目的、まちづくりに関わる多様な主体が進むべき方向性を共有するためのものだということをお示ししております。

そして、２段落目につきましては、これまでの本市の市政の歩みについて背景も捉えながら、「成長期」「成熟期」ということでご説明をしておるところでございます。

以下がこれからの時代背景についてお示しをしている部分でございます。これまで培った資源や知恵を生かしつつ、新たな価値観を生み出す転換が求められているということがありまして、その下の段落、日本全体のところですけども、本市も近く人口減少が始まりますけれども、東北の中での人口シェアは逆に高まるということで、仙台の中枢性が期待されるというところについても触れまして、一番最後の文章ですが、「誰もが豊かに暮らせる仙台への未来に向けたまちづくりを進めていきます」としております。

関連するデータとしまして、１ページ目の下には仙台市の人口推計、そして次のページには先ほど申し上げた東北の中での仙台の拠点性が高まっていくということで、全国・東北の人口増減率を併せてお示ししております。その下には計画の体系、そして計画期間についてまとめています。

３ページをご覧ください。３ページからは「新たな杜の都に向けて」としまして、これまでご議論いただきました、まちづくりを進める上での４つの価値観をそれぞれで磨いていくのみならず、それらを掛け合わせ、相乗効果を生みながらまちづくりを進め、その先に「新たな杜の都」を目指すということで、先ほどご説明しました都市像のコンセプトについて少し丁寧にこちらで記載をしております。そして３ページの下のところには、そのイメージ図を掲載しております。４つの都市個性を４つの輪で示しておりまして、ちょうど、輪が重なっている部分がいわゆる掛け算となるイメージのところでございます。

なお、「活力の都」の右側の説明部分につきまして、前回の審議会で、仙台は「東北の玄関口」であるというところ、また「東北を牽引する仙台」としての役割といったご意見をいただきましたので、そのような表現を盛り込んでおります。

また、前回は仙台の特性として、「地域社会のために動く方が多い」というようなご意見であるとか、また市民像を掲げることに関してのご意見、そしてまた、これに対して慎重に対応すべき、とのご意見もございました。たしかに本市はこれまで市民の協働を推進してきておりまして、特に震災の折には市民の力が大変に発揮されて復興を後押ししたという貴重なかけがえのない経験もありまして、やはり多様な市民の力は仙台の強みであるということは十分あると思います。これまでの審議会でのご議論も、まちづくりは行政だけで行うものではないという大前提の中で多々ご意見をいただいてきたものと受け止めておりますので、本日の資料には「仙台の都市個性の強み」として市民の力を活かしていこうという観点で、「共生の都」の右下の説明の部分に「市民の主体的な行動力」というふうに記載させていただいております。また市民の力を活かすという観点につきましては、これからご説明する７つの視点ごとの中に具体的に織り込んでおりますので後ほど触れたいと思います。

めくっていただきまして、４ページ、５ページがそれぞれご議論いただきました４つの都市個性について、その背景についても、少し事務局の方で補足も入れながら、これらが形づくられてきた経緯であるとか、そしてこれらの都市個性を取り巻く現状などをお示ししております。そして＜目指す方向性＞としまして、それぞれの都市個性をどんな方向で活かしていくかというところを記載しているところでございます。こちらは後ほど議論の中でご高覧をいただきたいと思います。

６ページをお開きいただきたいと思います。６ページには「重点的な取り組みの視点」についてお示ししておりまして、先ほどご説明した７つの視点がまとめられております。そして７ページ以降からは、それぞれの視点ごとに１ページずつということで、「視点（未来の状況）」と「取り組みのイメージ」を基本にまとめているところでございます。

では、視点①から⑦まで、前回までにいただきましたご意見などにも触れながら要旨を順次ご説明してまいりたいと思います。

まず、７ページ、視点①の「仙台を伝える」ですが、こちらは一番上の視点にありますが、仙台の防災力と「杜の都」の豊かな自然環境を活かした快適で品格のある都市環境に着目をしまして、本市ならではの都市ブランドの確立を目指すというところでございます。

その下の「施策形成の背景」ですが、国際社会におけるＳＤＧｓの取り組みなどにも触れつつ、現在、本市で取り組んでいる、「杜の都」を未来へ継承していくための「百年の杜づくり」、そしてまた、「防災環境都市づくり」などの取り組みを踏まえながら、今後につきましては、「杜の都の資源を活用する視点を持って、風格や品格を備えたまち並み形成などのさらなる価値向上が求められる」とまとめております。また、「防災環境都市と併せまして、発信し、世界に誇る都市ブランドの構築が必要である」というふうに記載させていただいております。関連するデータも代表的なものを２つ載せさせていただいております。

「取り組みのイメージ」が下に書いております。【杜の都の深化】として、前回ご意見

いただきました「杜の都を楽しむ」という視点が大事ではないかというところ、そして建物更新時等における景観への配慮、グリーンインフラの導入等をここのところには列挙させていただいております。また次の、下の【防災環境都市の推進】のところでは、災害への対応力強化や気候変動への対応、そして消費エネルギー削減等の取り組みを列挙させていただいております。

なお、11 月に行いました市民参画イベントにおきましても、市民の皆さまのご意見として、「防災・減災の意識の高いまち」また、「自然とまちが一体となる都市」、そして「世界に誇る」などのワードがこの分野では出されているところでございます。なお、こちらの「取り組みのイメージ」につきましては、現時点で考えられるものを列挙しておりますので、これに限定するという趣旨ではなく、今後の中でもっと膨らんでいく、新たなものが出ていくという可能性がある部分として受け止めていただければと思います。

８ページをご覧ください。視点②の「仙台でともに活きる」は、さまざまな価値観や立場の方々の考えをより良いまちづくりのために活かし合える社会を目指す、というもので、前回複数の委員の方々からご意見があったワード、「相手に伝える」、「相手も受け止める」、そして「相手をおもんぱかる」といった表現をこちらの方で使わせていただいております。

「施策形成の背景」につきましては、オリンピック憲章に関する差別禁止の背景を一例として用いながら、前回、前向きな表現としてご提案いただきました、「施策形成の背景」の最後の文章になりますけれども、「異なる視点の発想が相乗し合い、イノベーションが生まれる」という環境を整える必要があるということを書かせていただいております。

その下の「取り組みのイメージ」としては、現時点で２つ確認させていただいておりまして、【共生交流社会の形成】としては「パラリンピックのレガシーなど多世代・多様な主体間の交流環境の創出」であり、もう１つは【支え合いと社会参画の促進】として、「心と命を守る支え合いの基盤づくりなど、多様な主体が活躍できる環境の構築」を挙げております。

11 月の市民の参画イベントにおきましても、「人が認め合う、共感する」などのワードや「一人一人が生き生き働き、支え合うまち」など共生社会に関するご意見も多く出されたところでございます。

続きまして９ページをご覧ください。視点③「仙台で暮らす」ですが、こちらは多様な主体が関わり協働し実践することにより、「誰もが安全に、安心して暮らせる」地域社会を目指すものです。前回ご意見がありました「安全・安心」の視点についてはここに盛り込ませていただいております。

「施策形成の背景」ですが、中段になりますが、町内会をはじめ、市民活動団体や企業などがアイデアを活かしながら、地域活動に関わり、協働できる環境づくりが求められるというふうにさせていただいております。

「取り組みのイメージ」としては、【基盤となる地域団体等の体制強化】として、町内会のほか、前回ご提案がありましたＮＰＯなどの主体が継続して活動できる環境づくりなどを挙げております。またその下、【地域課題解決への連携】として今ほど挙げました各主体の連携しやすい環境づくりや、さらにその下、【快適な住宅環境の確保】としては、前回ご意見がありましたが都心部、そして郊外地域の安全安心に暮らせる住環境の確保に

ついてもこちらの方に記載させていただいております。市民参画イベントでのご意見も、「地域生活支援」に関するご意見が最も多く寄せられた分野となっております。

続いて 10 ページをご覧ください。視点④の「仙台で育つ」は、子どもたちが安心して学び、たくましく社会に羽ばたける地域社会を目指すもので、前回ご意見がありました「家庭、学校、地域」この３つのファクターの信頼や連携を深める環境づくりについても盛り込んでおります。

「施策形成の背景」のところですが、子育てや教育に対するニーズの多様化であるとか、育児の孤立化、また貧困などの深刻化の懸念があることから、中段になりますが、地域全体として子育てを支援する社会づくりと、さらにその下になりますけれども、「学校教育においては」のところで、「いじめの防止など子どもたちの安心して学べる環境づくりが求められる」というふうにしております。

「取り組みのイメージ」は、【子育て応援社会の形成】や【学びの充実】として、学力面はもちろんですが、それだけではなくて人としての思いやり、自分で考える力を育み、社会環境の変化にも適応できる柔軟性を持った児童・生徒の環境づくりということを掲げさせていただいております。

市民参画イベントでも子どもに関するご意見、多々ございましたけれども、「子どもを地域全体で育てることができるまち」や「生きる力のある子ども」、また教育支援に関するご意見が多く出されたところでございます。

次に 11 ページをご覧ください。視点⑤の「仙台で学び合う」です。こちらは多様な主体が地域づくりに関与しながら、そしてチャレンジし学び合うことを目指すもので、大学生に加えまして、前回ご意見いただきましたもう少し下の年代もということがありましたので、「中学生、高校生」を想定しまして、「学生や児童生徒一人ひとりが」というような表現を使わせていただいております。

「施策形成の背景」は、「学都」に象徴される知的資源や若者の持つ柔軟な発想を積極的に活かし、そして学び、チャレンジし、活力があふれるまちづくりが求められるというふうにさせていただいております。

「取り組みのイメージ」としては、【協創の場づくり】や【生涯学習の充実】を列挙しております。

市民参画のイベントでは、「若者がまちづくりに参加し、よりよい仙台をつくっていく」というご意見や、「学生と地域が助け合う仙台」、「さまざまな人が活躍できる場がたくさんあるまち」などのご意見が出されているところでございます。

続きまして、12 ページをご覧ください。視点⑥の「仙台で働く」でございます。こちらは地元企業の経営力や魅力の向上、そして働きがいやチャレンジしやすいといった観点で、仙台が働く場所として選ばれるということを目指すものでございます。

「施策形成の背景」ですが、学生が集まるものの東京圏への流出も大きいという状況を踏まえまして、前回ご指摘いただいた「働きたい企業がない、働き手が見つからない」といったアンマッチに対応するため、地域経済を牽引する中核企業の輩出やそれから起業支援などのほか、多様な主体が働きやすい環境づくりが必要であるというふうにまとめさせていただいております。

その下の「取り組みのイメージ」としては３つありますけれども、【地元企業支援】として、前回、成長企業を特に推した表現を資料として書かせていただいたのですが、成長企業だけではなくて地元企業の支援も必要とのご意見も踏まえまして、地元中小企業の成長応援であるとか、その下の【イノベーションによる成長促進】、そして【働き方改革】についていくつか列挙させていただいております。

市民参画イベントでも、「働きやすく住みやすいまち」、「就職先が豊富な都市」、「若者が仙台を選択し、根付いて働けるまち」などのご意見が出されております。

最後に 13 ページをご覧ください。視点⑦の「躍動する仙台を創る」ですが、こちら前回ご意見いただいた「稼ぐ都心」の趣旨を踏まえまして、東北の中枢都市として民間投資を呼び込む都市機能と賑わいを創出している都心を目指すというものでございます。

「施策形成の背景」ですが、これまでの本市のまちづくり、地下鉄沿線、地下鉄整備とその沿線を中心としたまちづくりを進めてきた一方で、都心全体の活力や安全面での課題が顕在化しているというところ、またインバウンドも遅れなどがあるというところを踏まえまして、「東北・仙台都市圏を力強く牽引する活力創出と賑わいを呼び込む環境づくりが求められる」としております。

「取り組みのイメージ」として３つあります。【開発誘導】として民間投資を呼び込む取り組み、また【賑わい創出】として都心部全体における面的な取り組み、ここは前回の会議での「都心の魅力づくり」は、ストリート、通りごとではなく、エリア、面的に捉えてもいいのでは、といったご意見ですとか、定禅寺通だけではなく、仙台駅西口なども含めた表現がいいのではといったご意見、また中心商店街については再生という表現がいいのでは、といったご意見を踏まえまして、まとめさせていただいております。また【交流人口拡大】として、東北の玄関口として、東北全体を視野に入れた取り組みなどを掲げさせていただいております。

なお、前回表現が統一されていなかった「歴史文化資源・資産」については「資源」に今回統一させていただいております。

市民のご意見としましても、「東北の中枢」、「人と人が交流する場を持つ」、「大勢の人であふれる活気あるまち」、「仙台の良さを基盤にした経済の活性化」などのご意見をいただいておるところでございます。

長くなりましたが、説明は以上でございます。

○奥村誠会長

ありがとうございました。今の事務局からの資料の説明をしていただきましたけれども、資料に記載のない点について若干補足をいたします。これまでのご意見として、ＫＰＩ、評価のための目標指標というのを設定してきちっと進めていくべきではないかというご意見がありました。先ほど全体の構成の中で少しありましたけれども、基本計画ですので実施計画の段階だと具体的な数値に連関させるというのがすっきりくるというところがあるのですけども、具体には、この大きい方の計画に盛り込めるかどうかということについては、議論がまだ不足しているかと考えまして、今回は盛り込んでおりません。それから周辺市町村との都市圏単位で考えるべきという意見もあったかと思いますが、これもま

だ十分議論できてないと思いまして、今回は入っておりません。これらは審議経過案としてはひとまず載せないということになっておりますけれども、今後部会で議論いただくということを含めまして、引き続きご意見いただきたいと考えております。

では、ひとまずここまでのところで、資料の２−１、資料２−２の内容につきまして、ご質問ありましたらお願いしたいです。どうでしょうか。

渡邉委員さん、どうぞ。

○渡邉浩文委員

主に２－１についてまずお話したいのですが、大変丁寧にまとめ直してくださったなというような印象を持ちました。特に私が関連するところですと、キーワードの欄で見ていただいた方がよろしいと思うのですが、②の「防災環境都市」のところのサブキーワードに「気候変動への適応」という位置付けを整えてくださったとか、私以外にもご発言くださった委員がいらっしゃいましたが、③の「地球温暖化対策」のサブキーワードに「消費エネルギーの削減」というようなことをすっきりと整理していただけたなと思います。ただちょっとこれは僕の発言が強すぎたからだと思うのですけども、もともと③は「地球温暖化対策」ではなく「脱炭素社会」というふうな表現になっていたのです。そして、僕は脱炭素できないので「気候変動への適応」なのだというようなことをたしかに申し上げたのですが、脱炭素そのものを否定したわけではなく、サブキーワードの「気候変動への適応」との座りが良くないというようなところが趣旨でございます。また、「脱炭素社会」は 10 年では達成できないのは明らかなわけなのですけど、脱炭素を目指すということであれば、決して大きな目標としては悪くない言葉ではあると思うので、ここは恐らく私の発言が強すぎたのでこうなってしまったということなんだと思うのですけれども、今一度検討していただいても、僕としてはよろしいのではないかなと。是非検討していただきたいなというふうに思うところです。

キーワードの数字がついているところの右のサブキーワードというのでしょうか。ここを整理していただいたが故に、この番号のついたところのキーワードのところの言葉まで直してしまうと、かえって弱くなってしまうというような印象を覚えたものですから、前回に引き続きこの部分を指摘させていただきました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

菅井委員さん、お願いします。

○菅井茂委員

先ほどちょっと聞き漏らしたかもしれませんが、今回のところにその歴史的な文化遺産、資源とかの表現がほとんど入ってないような気がしたのですが、それについて何かこういうわけで入れなかったとかって話があったような気がしたんですが、もう一度その辺、なぜ歴史的な資産、資源等が入らないのかを、ものすごく感じたものですから。

○奥村誠会長

事務局からお願いできますか。

○松田政策企画課長

歴史文化資産、資源について、意図的に抜いているわけではなくてですね、活用の中にワードとして入れておりまして、１つ柱を立てるというよりは、資料２－２になるのですけれども、視点⑦のところ、「躍動する仙台を創る」のところなのですけども 13 ページになります。下のところに交流人口拡大とありまして、その中で「歴史文化資源や体験プログラムなどの観光コンテンツの充実」ということで、いわゆる歴史文化資源を活かすという観点で、こういった形で入れ込んでいるというところになっておりますので、さまざまな視点の中に活かせるところがあれば歴史文化資産についても追加していくことが可能性としてはあるかとは思っております。

また 11 ページについても同じように、視点⑤の「仙台で学び合う」ですけども、一番下に【生涯学習の充実】ということで、「仙台の歴史文化などと触れ合うことで地域への愛着を育む」などの形で、これもやはり活かすという視点で入れ込んでいるものでございます。

○奥村誠会長

よろしいでしょうかね。そのほかどうでしょうか。

小野寺委員さん、お願いします。

○小野寺健委員

若干確認なのですけども、資料２－１は出てきた視点とか、さまざまなご意見がまとまったシートだというふうに認識しておりまして、資料２－２の部分の「計画策定の考え方」だとか、そちらの方の議論をして、それに対しての指摘をするというような感覚でいたのですけども、資料２－１のところまで抜けていれば指摘するとか、修正したい場合はそれを言うとか、そういう形になるのですか。

○奥村誠会長

すみません。今は、資料やその説明のところでの簡単な質疑をお願いしていまして、次に時間を取りまして、その中でまず「計画策定の考え方」について、そしてこのシートなり、この資料の内容について、皆さんからそれぞれにご意見をいただきます。

ですので、今はすみません。進め方が申し訳なかったのですけども、説明に対する確認のためのご質問をいただいている段階ですので、次の時間にお願いすることになります。

○小野寺健委員

ということは資料２－１の部分も踏まえて、今、課長がご説明いただいたものに関してやりとりをするということでいいのですね。会長さんは資料２－１と資料２－２の部分を一緒にというようなことを、お話をいただいたものですから。

○奥村誠会長

混乱させてしまいまして申し訳ありません。今の説明そのものの不明瞭なところに対してご意見をいただいています。それが良ければ次に具体的にこの経過案の内容についての審議ということにしたいと思います。よろしいですか。

それでは時間としては 90 分ぐらい取れると思いますが、構成に合わせて審議を３つに分けていきます。１番目が「計画策定の考え方」、つまりこのどちらというと資料２－２のところの最初の２ページです。それで大体 10 分位、「新たな杜の都に向けて」という将来像の確認です。この資料の視点①から⑦までのところまで４つの個性の方向性の話と、その次の７つのところについて 40 分位。その後、３番目として「重点的な取り組み」、「キーワード」、右側のところについて議論をしていただくということにします。

最初に「計画策定の考え方」、１ページ目、２ページ目です。１ページは導入についての大事な部分と思いますけども、文章にしたのは初めてということですので、いくつか論点を提示してご議論いただきたいと思います。最初の「計画策定の目的」の表現というのが第１段落目ですかね。これでいいかどうか。あと２番目の段落のこれまでの歩みを「成長期」「成熟期」というふうに書いているところ、３番目の段落で未来に対して「次なる時代への転換」が今求められているのだというふうにしているところ、４番目の段落で東北の中枢として本市の役割が高まるとしているところ、ここの文章の書いてある辺りがこんな感じでよろしいかどうか。ここはそんなに違いがあるかとは思っていませんので、簡単にいくのかなと思いまして 10 分位。最大で 10 分位と思いますが、ご意見のある方がありましたらよろしくお願いします。どうでしょうか。

柿沼委員さん、どうぞ。

○柿沼敏万委員

希望というか要望ですが、私、横文字が大変弱くて理解ができないところがあるのです。中段のところ、グローバル化というその次に「ＳＤＧs」とありますが、括弧で何か補足した言葉（エスディージーズ）を入れていただけると理解が深まるのかなと。私自身が思ったものですから。皆さんはよくご存知の言葉だと思うのですけども、補足していただければ、私自身だけでなく、より多くの人の理解が深まるのかなというふうに思い、ご要望として申し上げさせていただきました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。それはそのようにします。そのほかどうでしょうか。

小野寺委員さん。

○小野寺健委員

大方はこれでよろしいかと思うのですが、若干引っかかっているのが「人口減少のスピードが比較的緩やかで」というところ。本当にそうだろうかという思いがあります。下の表でも 2015 年 108 万 2,000 人となっているのですけど、2030 年は 108 万 6,000 人とほぼ

横ばいという数字で想定しているのですが、実際問題、私は泉区なのですが、泉区は一昨年から人口減少が進んでいますし、高齢化も進んでいます。さまざまな状況がある中で本当にこの推計でいいのだろうか。ちょっとそこは確認が必要なのではないかなというふうに思っていまして、その表現に若干引っかかっているところがあるので、そこを取り計らいいただければと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。私自身は違う考え方を持っていまして、次の２ページのグラフを見ていただければと思います。要は「これだけしか減らない」という捉え方でして、「うちは人口減少が心配だ。何とかしてくれ」というスタンスの置き方はあまりよろしくないのではないかというふうに思っていまして、「あまり人口が減ると強調するな」と事務局にお願いしたところです。これは将来がとりあえずどうなっているのか、ここの意図は時代の転換期にあるということが趣旨なのであって、この数字が決まったものだということで話をしてくださいという意味ではありません。ですから、「まあそんな転換期がくるのだ」と、「何か考えなければいけない時期に来たね」ということが分かってもらえればいいという趣旨です。最初から申し上げていますように、結局これを外に出していくときに、「仙台も大変なのだな」というような計画にしたくないのです。「仙台はそれでもやっぱり先頭に立って頑張るのだ」というように見える計画にするためには、あまり悲観的な数字を強調して出してもしょうがないのかなというところもありまして、「こんなものだ」「時代の転換期に来ているのだ」ということが伝わればいいかなという趣旨で今のところこうなっていることなのですが、少し検討させていただきます。

○小野寺健委員

この数字は、まちづくり政策局で作られた数字だと思うのですけども自信のある数字なのですよね。

○松田政策企画課長

合理的な背景の下、コーホート要因法を用いて、可能な限り、正確性を求めて作っている独自推計となっております。百発百中かどうかは置いておくとしても現時点できちんとご説明申し上げられる推計となっております。

○小野寺健委員

了解でございます。ありがとうございます。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

榊原委員さん。

○榊原進委員

「次なる時代への転換」ついてですが、「成熟期」から「次なる転換期」にあるというところだと思いますが、グラフのこの緑が示す「次なる時代への転換」が何十年あるのだろうというふうに見えてしまいます。この転換は赤色から緑色になるところがたぶん転換だろうと思いますので、もしかしたらこの 10 年が「転換期」にあるのかもしれなくて、その辺をどう見るかということが大切だと思います。「次なる時代」へというのがどういう時代なのかっていうのが、あまり審議会でも実は議論してなくてごまかしているように思えます。僕も上手く表現できていないのですが、「成長期」、「成熟期」、では次に何期というふうに言えるのか、逆に言うと誰も分からないというところがあると思うんですけど。ここはもう少し「次なる時代」をどういうふうに捉えるかというのを議論してもいいのかなと思いました。

ただの人口減少だけの時代ではないと思うので、そうではなくてどういう時代なのかというところを前提に、この 10 年なのか、２ページ目でいくと、「21 世紀半ば（2050 年頃）を見据える」ということですので、そこの中で仙台をどういうふうに見るのかというところがあると思います。グラフは「転換期」をどう見るかというところ、表現の仕方かなと思いますので、よろしくお願いいたします。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかどうでしょう。

見ていてうっかりしていましたけども、「今回の計画はこの軸の中でここからここまで」、「以前の計画がここからここまででした」という説明がこの図の中にないと良くないですね。だからそうしたグラフにしていただくようにする必要があるかと思いました。

では次に行きたいと思います。「Ⅱ　新たな杜の都に向けて」です。この資料の３ページからの部分ですけども、まちづくりを進める上で大切にしたい価値観、４つ書かせていただきました。「杜の都の風土」「共生の理念」「学都、学びの気風」、そして「東北の中枢」という、仙台で変わらないというか受け継がれてきた４つの個性があると。そして、これらを大事にしながら、それを伸ばして掛け合わせてまちづくりを進めていくのだというようなことを、仙台に住む方々がチャレンジしていくのだと。

先ほどの「時代が何なのか」ということを私だけの考え方でいうと、たぶんですね、「成長期は人口が増えるので何とかしないと追いつかないといけなかった時代」、「成熟期はそのときに始めたことで何となく延長線上で済んでいた時代」、「次なる転換期の後の時代は何が起こるか分からないけれど何とかする時代」だと思うのです。ですので、４つのことをベースにしながら、掛け合わせながら何とかしていくのだと、そういうことなのだろうと思うのですけれども。それで全体としてはこの４つを活かしながら、外枠で書いてある緑色で囲ってあること（４つの都市個性を活かしたまちづくり）を目指すのだというイメージでのこの３ページ目の図が作られております。

さて都市個性はこの４つでいいか。ここで５つにしろ、６つにしろと言われると実は困るのですが、大体審議の内容を見ていますと、この４つに集約されつつあるのかなというふうに思っております。それから市民像のところについては、事務局からも少し説明がありましたけれども、市民がこうあるべきということはなかなか書けないところがあります

ので、主体的に行動していただけるような行動力を持った市民というのを大切にしていきたい、その人たちに参画していただいきたいということで、取り組みの中にも重要な要素として埋め込んでいるという形で表現しております。

改めましてこの４つの都市個性、価値観について、こうした方向性でよろしいでしょうか。ご意見がありましたらよろしくお願いいたします。

柿沼委員さん、どうぞ。

○柿沼敏万委員

１つは、まちづくりの外枠で囲んでいるところ（３ページ）です。「世界の中の東北としての玄関口」というのが、私にはどうも「玄関口」という表現は平易すぎて、一工夫あった表現のほうがいいと思われました。何かなと思っているのですが、牽引というのは中枢で絡みますし。どうも「玄関口」という表現が、世界の、東北の玄関口の仙台ですというのでは、どうも平凡と言うのでしょうか、並の言葉です。総合計画の案ですから、ここのところは皆さんのお知恵を拝借したいなというふうに思いました。

それからもう１つ申し上げますと図（３ページの図）です。活力・共生が強く浮き上がるような感じの図ですけども、やはり私は、世界に発信してというようなことを問うとすると、「杜の都・仙台」というのは世界に通じているイメージだと思うのです。そうすると「杜の都」のイメージといいますか、図からすると全体をそういうグリーンで囲んで、そしてこの４つを組み合わせるような形にすればどうか。私は活力の都と言えばどこでも、恐らくどのまちでも使っている言葉だというふうに思いますので、もう少し「杜の都」、まさに世界に通じるイメージを、この図の中にどうにかならないのかと、資料をいただいたときから申し上げたいなと思っておりました。私の感覚の話で恐縮ですけれどもそう思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。表現については、私もちょっと得意ではないので。たぶんですが、今あります外枠の４つの都市個性を活かしたまちづくりが四角で囲ってあるから何か堅いのですけど、真ん中の一番ベースになっている小さい方の「杜の都」というのは、我々が今まで受け継いできた特にベースになるところというイメージなので、それをそのほかの３つと掛け合わせながら膨らませてこの全部を包含する大きい丸い、大きい楕円というか、「新たな杜の都」を発展させていくのだというイメージに近いかと思うのです。

ですので、先ほどありましたように資料２－１の一番上に赤字で書いていただいているような話なのですけど、「仙台が仙台らしく輝ける新しい杜の都」みたいなものが、この外側のイメージなのかなというふうには思っておるのですけど、表現については検討させていただきたいと思います。そのほかどうでしょう。

鎌田委員さん、よろしくお願いします。

○鎌田城行委員

関連してなのですが、今の図の表現については後ほど。先ほどの会長の説明の「ベース

が杜の都」ということに非常に共感・同感するところです。それに対して、ほかの３つについて「活力」「学び」「共生」それぞれに「都」がつくということで、「杜の都」全体ということが薄まってしまっているのかなというふうな印象を受けました。要は「杜の都・仙台」というのは私個人的には仙台の冠であると思っておりまして、そこに対して何とかの都という表現はなじまないような気がして、この図を見させていただいていましたので、今後の検討の中で何かしら良い表現が見つかればいいなと思っておりました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。検討させていただきます。そのほかどうでしょう。

小野寺委員さん、お願いします。

○小野寺健委員

先ほど榊原委員がおっしゃっていましたけど、2030 年以降の次なる時代にいったい仙台はどうあるべきかという議論をもう少しした方が本当は良いかなと思うのですけど、ここは一応資料としてまとめていく段階だと思うので、次の出番がたぶんあるのではないかなということで承知をすることにいたしました。

その次の時代をどうするかといったときに、今、「杜の都」との話がありましたけれど、この会でも「杜の都」の整理をやっていたような気がして、その整理は終わったのでしたかというような、私の記憶がちょっと曖昧なのですが。私個人としては、「杜の都」はベース、本当に一番それが大事だし、たぶんそこが今回の「新たな杜の都に向けて」という表題にも載っていますので、そこをベースにして上手くやっていくというのに賛成です。

後、鎌田委員がおっしゃったように、やはり都、都、都、たしかにそうだなと思うのと、「杜の都」はやはり中心にあって、上手く噛み合わせていく。こういう図表というのは苦手なのですけども、そういった仕組みのことを考えていただければいいのかなというふうに思っております。いずれにしても、2030 年の仙台というのをもう少し議論していかなければいけない。2030 年の「杜の都」はどうあるべきかなのかもしれませんが、そういった議論も必要なのかなというふうに思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございました。では佐々木委員さん。

○佐々木綾子委員

今の「杜の都」のご意見に関連して少しお話させていただきますと、視点①の方でも「個性的な都市ブランドを確立し」と書いてあります。ブランドというのはやはりコアな価値があって、付加価値があって、その価値がイメージできることがブランドだと思うのです。ですので、その「杜の都」はもちろん、その中でどんなものが価値なのかということを我々がきちっと言えるように言語化していくことが今後必要なのかなと。そうしないといろいろな方々に、では「仙台のブランドって何？」と言われたときのイメージが湧かないと、そのブランドは成立しないのかなというふうに思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

舟引委員さん。

○舟引敏明委員

「杜の都」ついででもう一言。４ページ、私がいろいろ申し上げたことをたくさん書いていただいて非常にありがたいと思っています。「杜の都」の話で言うと、未来の前に、過去の歴史認識としての「杜の都」というところなのですが、伊達政宗公がつくった「杜の都」はいいのですけれども、現在の「杜の都」とは、戦災から再生する中でぽっとできたように書かれているのですけども、「杜の都」という言葉を、「杜の都の復活」という言葉をスローガンにして実際に都市形成が行われてきた結果、「杜の都」が形成されてきているという、そういうトーン、ニュアンスがほしいと思います。加えて言えば、東日本大震災からの復興計画においても高台移転を含めて、資料２－１については「防災減災Ｅｃｏ－ＤＲＲ」と書いてありますけども、同じように「杜の都の復活」という、結果として姿の「杜の都」だけでなくて、理念としての「杜の都」が都市形成につながってきて、今の姿にあるというところの認識から次の時代へスタートするというようなトーンになってくれると、より説得力があるのかなという気がいたします。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

○榊原進委員

２ページの確認になってしまうのですけれど、２ページの１番下に、「現行の基本計画と同様に 21 世紀半ば（2050 年頃）を見据えることとします」となっています。新しい基本計画を作っていますが、現行の基本計画も 2050 年を目指していて、今の４つの「活力」「学び」「共生」、現行の計画だと「杜」は「潤い」になっています。現行計画の都市像だと「人が輝く杜の都仙台」となっていて、皆さんが今言っている「杜の都」をベースにして４つあるのではないかという話も、現行計画と大体同じかなと思います。現行の基本構想は、これはこれで生きていくのか、いや今回改めて基本計画の策定に伴って新しく作り直すのか、その辺が今一つよく分かっていなくて、今議論している４つの都市個性と、現行の基本構想の都市像ではキーワード的には似ているので、その辺をどう見ればいいのかなという確認、質問です。

○梅内まちづくり政策局次長

今のご質問についてなのですけども、基本的には現行の総合計画について改定するということでお願いしておりますので、現行の基本構想についてはいったん廃止をして、新しい基本計画の中に新たな都市像を定めることとなります。ただし、これまでのご議論でもありましたように、まちは積み重ねでございまして、「杜の都」も今までいろいろご議論

ありましたけども、政宗公以来、あるいは戦災以来、震災以来の人々のさまざまな営みの積み重ねが「杜の都」でございますので、その意味では都市像を改定しても似てくるところはございます。ベースを１つにしながら時代に合わせてどう変えていくかというところを狙っているつもりでございますので、そういう意味では廃止ではありますが、非常に似ているというような、ちょっと曖昧な回答で申し訳ありませんけども、その中でこれからの時代についてどちらを向いていただくかというご議論かなと思っております。

○奥村誠会長

まあこの２ページ目の一番最後に「現行の基本構想と同様に」と書かなければいいのです。書いたから前の基本構想や都市像が残っているように見えているだけなので、ここの文章は抜いていただいた方がよろしいかと思います。

ほかどうでしょう。菅井委員さん、お願いします。

○菅井茂委員

前からあったのか、「学びの都」のところにですね。「学びに積極的な市民性」というのがあるのですけど、そんなに積極的な市民性ですかというのが実感なのです。と言うのは、逆に言うと首都圏でいろんな講習会を、有料でやる講習会がありますけれども、それにはもう参加者がいっぱい出てくるのです。ところが仙台でやると出てこないのですよ。そういう状況なのにこういう表現があるということは、私はとても違和感を覚えるのですが、いかがでしょうか。

○奥村誠会長

事務局からお答えになりますか。検討させてくださいということですね。はい。分かりました。よろしいでしょうか、

この４つのところは、先ほどの話からもありましたように、そう簡単に変わるようなものでもないのですね。ですので、今の４つのところをベースにして、資料２－１の赤字のところ、あるいは、掛け合わせ方ということで「４つの都市個性を活かし、育み、掛け合わせてというまちづくりの価値観を市民と共有し、皆で創意工夫と挑戦を重ね、仙台が仙台らしく輝ける新たな杜の都を目指す」という部分ですが、ここについてちょっと確認をさせていただければなというふうに思います。

その「杜の都」の「杜」の部分で、「杜」の意味は何なのかという話なのですけれども、実は、私の理解は先ほどちょっとお話ししましたが、「杜」という中に本当は、多様性・共生・学び・活力という素（もと）が入っているのではないのかと。私がイメージしている「杜の都」の「杜」とは、この字ではなく、木が３つの「森」のほうが近いのかも分かりませんけど、人が進化してくるときに何か食べ物を探したり、その辺に草が生えていたり、きのこが生えたりするでしょうけど、それ食べられるかなと挑戦して食べてみて、これはだめ、これは食べられるみたいなことを学びながら、でもその季節によってできるものが違うわけですから、それぞれ違いを認めながら、学んでいって自分たちのできることを増やしてきたという、人類の歴史みたいなものが本当は森みたいな環境の中に支えられ

ていると。それが単なる自然ではなくて、他の人の存在とか他の社会の組織の存在とか含めて、いろいろな多様性のあるところを認めながらその中でどう生かしていくのかということを学びながら、新たな活力の種を見出して現実の問題をいろいろ解決していく、新たなことを生み出していくダイナミックな活動みたいなものがされている都市を「新たな杜の都」とイメージしています。ですので、「新たな杜の都」というのはこれまでやってきた「杜の都」よりも、もっと実は奥の深いところにあるというイメージを持っています。そして、次の時代というのはどんな試練が来るのか分からないけれども、共生とそこの学びの中から新しい活力を見出すというダイナミックな力を持てば、乗り越えていけるのではなかろうかという、そういうイメージを考えておりまし す。その意味では下に書いてあったベースになる「杜の都」の「杜」の字と、「杜の都」の「杜」と今度の目指していくときの新たな「杜の都」の「杜」というのは、思想としては連続していると思いますけども、少し違った意味を持っているという考えでおります。

ここについて、都市像について事務局から補足ありましたらどうぞ。

○松田政策企画課長

先ほどから、仙台の都市像についてのいわゆる考え方、コンセプトのご意見を委員の皆さまから多々いただいているところでございます。この資料２－２「審議経過」では、都市像とはこういうフレーズ、こういうワードでというところまでまとめ上げているものではございませんが、この３ページの中に書かれてある、特に４段落目に書かれてある、「皆で創意と挑戦を重ね、掛け合わせながら仙台が仙台らしく輝ける新たな杜の都を目指します」というようなワードで現時点では都市像のコンセプトをまとめさせていただいているところでございます。今後の審議や部会での議論、状況の変化等々を踏まえまして、いわゆる都市像をどのような表現、どのようなワードで表していくかということについても今後精査されていくものというふうに受け止めております。

○奥村誠会長

この「審議経過」をどこかで公表するということですのでまとめますけれども、先ほど言いましたように、ここまでで終わり、次はこれも見直さないということではないので、基本的には本日これを示している案で進めさせていただいて、その後も具体的な議論をまた引き続きやっていくということで進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

遠藤委員さん、どうぞ。

○遠藤智栄委員

先ほどの菅井さんのご発言に関連して、今後確認できたらいいなと思いましたのでお話しておくのですけれども、有料の講習会になかなか集まらないという特性があるということを伺いましたが、私、活動を普段いろいろしていますと、仙台市内の社会教育施設がかなり使われていて、取れないお部屋もけっこうあるのですね。ですので、学びの中にはこちらの本文とかにも出てきますけれども、社会教育や生涯学習ということも入ってきますので、市の方で利用率ですとか、自主グループとか団体とかの数を調査されていると思い

ます。それを数値的に示し、仙台は社会教育施設辺りの活動量が多いですとか、何かそういうものがあると有料の講習会には参加者が来ないかもしれないですけども、自ら学びをつくり出せるというような、ある意味それはすごく前向きでとても大切な特性になるのではないかなと思うのですね。ただそれを体感でしか私も感じていなかったので、もし数値があれば、それは日本中に誇れることになるのかなと思いましたので、もし何かそういったデータがあれば今後お示しいただきたいなと思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。菊地委員さん、どうぞ。

○菊地崇良委員

「杜の都」を深めていくという話があったのですけども、先ほど会長がおっしゃられたように、資料２－１の一番上に赤字で書かれている「杜の都」は多くのことを包含する上位の概念であると。まったくそうなのだろうなと思います。一方、その左横に書いてある都市環境と併記している「杜の都」はいわゆる下位のあるいは狭義の「杜の都」となります。しかし、それらを同じような使い方で併記することは、非常に混乱をきたすのではないかなと思います。「現在の杜の都」、あるいは「未来の杜の都」ということにおいても、こうした書き方をするとちょっと混乱していくので、今後の検討なのでしょうけれども、その全体を包含する上位の「杜の都」というのはなんとなくあるよね、全部含まれるねという皆さんのご発言があったことを踏まえると、計画作成の手法として左にあるこの「杜の都」を別の言葉に書き換えることが最も現実的なのではないのかなと思います。左側にある都市個性の「杜の都」の中身を見ると、「仙台を伝える～世界に輝く杜の都の深化～」という真ん中の文の中に、防災であり、景観であり、グリーンである、大震災であると。そうなるとこれをその狭義の「杜の都」というふうに規定するのも狭すぎます。例えば、安全・安心の話は今回別のところに、中に入れてもらいましたけど、もしかしたらこの狭義の「杜の都」、都市環境の「杜の都」は、例えば安らぎとか、安全とか、そういう言葉に本当は置き換えられた方がいいのではないかなと思っていますので、今後の検討の中でその部分も含めて見ていただければと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。はい。ほかよろしいでしょうか。

鎌田委員さん。

○鎌田城行委員

表現に対する意見です。先ほどの上位の「杜の都」は「杜の都」という表現で取っておいていただいて、左側については例えば自然環境都市だとか共生都市だとか、そういうふうに「の都」という表現をあんまり多用しないでいった方が整理がつくかなというのが１つ目です。

もう１つ。１ページの人口の推移の上に「次なる時代への転換」というふうに表現され

ていて違和感があったのですが、先ほど改めて説明いただいた３ページの中段にある「成熟期から次なる時代へ」ということで考えれば、「次なる時代」というのはどういう時代にするかは今後検討する大きな課題かということで、「次なる時代」という表現は取っておいて、「への転換」という文字を削除し、１ページの人口推移グラフの中の表現としては「次なる時代」という言葉で止めておけば違和感がないかなというふうに感じましたので、意見として一応申しておきます。

○奥村誠会長

ありがとうございます。では岩間委員さん。

○岩間友希委員

表現１つでここまで議論が展開するので、私は３ページの図を見ながら、こうしたら解決するのではないかなと思っていたのですけど、たしかにこの４つの円って非常にムズムズするのです。何でかなと思っていたら、これまでの議論を踏まえると４つの円が重なり合うところに 2030 年に対応する「杜の都」がきて、それは環境だけではなくて理念を含めた「杜の都」というのが真ん中にきて、緑の円は別の表現なのではないかなと。例えば「の都」と付くのはたしかに違和感あるのですけど、学び、活力、共生、環境みたいにあって真ん中に「杜の都」があったら混乱を生まないのではないかなとちょっと思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。ここのところの表現はけっこう難しい。表現が得意な人に頑張っていただくことにします。では都市個性についてはこれでいいですね。

次は「Ⅲ　重点的な取り組みの視点」のところです。６ページからになります。先ほど説明がありましたように、前回までお示ししていたところからの大きな変更点としては子どもについての意見が多かったので視点④として加えたと。それから安全・安心というのが重要だということもありまして、その地域コミュニティのところにそのベースとして入れ込んだというような辺りが変わっております。ここのパートは前回の審議会でもかなり議論しておりますけれども、全体的にご意見いただければと思います。

ただですね、ここのところで議論を広げてしまうと大変なので、それぞれの視点の中でよりフォーカスすべきところはどこかとか、伸ばしていくべきところはどこかとか、あるいは、さすがにこの表現は良くないだろうとか、あるいはこういうそれぞれの項目の中でこういうところがもっと強調されるべきではないのかというようなことがあればご意見いただきたいと思います。ここでは 40 分ぐらい取れるかと思います。20 時ちょうどぐらいを目途に進めたいと思います。ご意見をよろしくお願いいたします。

小野寺委員さん、どうぞ。

○小野寺健委員

まずこの順番でいいのかどうかという議論はやっぱり必要なのかなあというふうに思っておりまして、視点①から⑦まで並んでいますけども、これは重点が１番から７番まで

下りていくのか、順番を少し考えて精査していかなければならないのではと思っております。

あと、現行の計画と仙台市政の展開を見ても、現状もう取り組んでいる部分があるので、10 年後、20 年後の部分の特筆すべきところは一体どこかという部分をもう少し整理をした方がよろしいのかなというふうに思っております。特に「都心再構築と交流都市づくり」を本当に一生懸命やっていて、さまざまな計画、今回も経済局から交流人口拡大の計画が出ています。現行でも一生懸命取り組んでいる中で、さらにここで計画をつくってさらに何をこれ以上するのかという部分もあるでしょうし、私の危機感からすると、それよりは郊外の団地を一体どうすればいいのかなという部分で、提言も含めてこう取り組んでいくべきだというところもあります。歴史的に中心市街地と郊外の部分は綱引きなんですけど、いつも。その部分で中心だけではなく、仙台の郊外をどうしていくかという部分をもう少し盛り込んでいただきたいなというふうな気持ちがあります。

○奥村誠会長

今の並び方は左側のその４つの都市個性が、「杜の都」、「共生」、「学び」、「活力」という順番になっていますので、右側の７つの視点も「杜の都」に近いところからまず書いて、次に「共生」に関するところ、その中に先ほどの住環境、郊外地域の住環境というようなことをイメージしていて、快適な住環境みたいなものが３つ目に入っています。「学び」のところに育つ、学び合うが入って、「活力」のところに働くと躍動する仙台、この左側の４つの都市個性の順番で７つの視点が並んでいるだけで、どれが一番重要なのだと重要度の順番に並んでいるわけではないのです。もともとのお話に戻るのですけど、私の気持ちとしてはどれが重要なのではなくて、最初に申し上げていますように、重要と思うものの重なり部分を持ってきてそこのところを重点的に取り組むという話であって、ここで順番をつけて、個別に対応するということはしたくないというのが正直なところなのです。だから本当は先ほどもありましたけども、郊外部の問題を解決するために住環境を整えなければいけないですけども、そのことを例えば地学連携というその学び合うというようなところの場として生かしながら、しかもそこのところで何か新しい技術を加えて産業化するみたいな、そういうようなものを出していきたい。結局１個ずつどれが重要なのだ、どれから先にやるのだというふうにやったら、トータルの資源が限られている中で、総花的になってしまいます。しかも１個１個に割り振られるものは小さくなって、結局何だったのだろうなということになってしまうというような意味がありまして、あえてこの重要度の順番に並べるとかいうことをあまりしていないという意図があります。

そのほかいかがでしょうか。姥浦委員さん。

○姥浦道生委員

答えはないのですけれども、今おっしゃったまさにその掛け合わせというところが非常に重要な一方で、この見え方がそうなっていないというところになんか非常に難しいところがあって、結局すみません、パッと答えはないのですけど、もう少し何か、例えば仙台で何でもいいのですけど、「働く」でしたら、これは「リカレント教育」プラス「働く」

ということになっているので、「学びの都」と「活力」というところを合わせているわけですよね。何かその辺りがもう少し見えるような形の図にできないなかあとも思うので。すみません。答えはないのですけども要望でございます。

○奥村誠会長

そのほかいかがでしょうか。鎌田委員さん。

○鎌田城行委員

計画ですから全部前向きに進めたい、能動的にこのまちをつくりたいということの話だと思うので、対案を持たずに無責任な発言になってしまうかもしれませんけれども、視点④のところでいう「仙台で育つ～子どもたちのより良い未来づくり～」というのは、ほかの項目からするとより良くするのは当たり前の話であって、もう少し具体的な未来づくりというのを示さないといけないかなというふうな感じを受けました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

舘田委員さん。

○舘田あゆみ委員

今の視点④のところなんですけれど、ちょっと個人的に違和感があって、「仙台で育つ」という言い方がなんとなく他人事っぽい。また、少子化を考えたときに、「産む」という言葉は要らないのかなと思いました。産んでいただかないと人口は増えないと思うのです。普通になってしまいますけど「仙台で産み育てる」とか、仙台でやっぱり子どもを産みたいと思ってもらえるような策も必要なのかなと思いました。ちょっとこの「仙台で育つ」というところに違和感があります。

○奥村誠会長

ありがとうございます。「産み」のところはいろいろなところで問題になることが多いので、なかなか入れにくいところがあったのだと思うのですけども。

菊地委員さん、どうぞ。

○菊地崇良委員

関連してですけども、私も同じ考えで、「育つ」という言葉ではなくて、例えば、「育む」というふうにすると、産みから教育まで入ってくるという話なのではないかと思います。

それから 10 ページの一番下のところですけど、「適応できる柔軟性を持った児童生徒を育成する」と書いているのですけども、児童生徒だけじゃないのかなと。例えば、大学生とかリカレント教育の人を考えると、いわゆる学生ということも入ってくるので、少し注意して見直した方がいいのかなと、関連して発言させていただきました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかどうでしょうか。

佐々木委員さん、どうぞ。

○佐々木綾子委員

「子どもたちのより良い未来づくり」といったところです。10ページの【学びの充実】に「人としての思いやりや自分で考える力を育み」とあるのですけども、ここで、やはり「地域とか社会を愛する心を育てていく」ということを1つ文言を入れていただけるといいのかなと思います。

視点⑤の「仙台で学び合う」といったところの 11 ページの【生涯学習の充実】に「地域への愛着を育む」とは書いてあるのですけれども、やはりお子さんたちがこれからの仙台を担っていきますので、そういった部分でやっぱりお子さんたちにもというか、「お子さんたちの地域を愛していく心を育んでいく」といったところをここに入れていただけるといいのかな。将来もし仙台にいなくても、違う地域に行ったとしてもやはり地域を愛することはゆくゆくは日本が良くなることにつながっていくと思いますので、やはりそういったことがここであるといいかなという意見でした。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかどうでしょうか。

鎌田委員さん、お願いします。

○鎌田城行委員

今 11 ページを開いていただきましたので関連ですけども、「取り組みのイメージ」の中で確認させていただきたいのは、「協創の場づくり」という表現に私個人的にはあまり馴染みがないので、一般的にもう使われている言葉であればそれを使うことに異を唱えるものではありませんけれども、計画を市民に示すときにみんなが理解し合えるというところであまり造語的な表現は極力控えてはどうかなというふうな思いがありましたので、確認です。

○奥村誠会長

事務局からありますか。

○松田政策企画課長

あまり一般的、日常的に使われているものではないのですが、全くの造語というわけではなくて、例えばパソコンで検索をするといくらかは出てくるワードではあります。ただたしかに私自身もこの審議会に入ってから初めて知ったワードなので、もし使うとしたらそれなりに注意を要して使わなければならないワードだと思っております。

○奥村誠会長

そのほかいかがでしょうか。舘田委員さん、お願いします。

○舘田あゆみ委員

もう１つ。３ページの「共生の都」のところに「健康都市の実現に向け」と書いてあるのですけれども、具体的な取り組みの中に健康に関係する取り組み、健康増進的なものが入っていないような気がしました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかどうでしょうか。

渡邉委員さん、どうぞ。

○渡邉浩文委員

視点①で「杜」の議論にするとまた戻ってしまうので「杜」の議論ではなくて、「仙台を伝える」という、この「伝える」という言葉遣いが少し違和感があるなと。例えば「杜の都」というのを我々仙台市民はとても大切に思っているわけです。それが今日の議論になっているわけなのですけども、「杜」とは何なんだろうかということを市民一人一人が考えたりとか、木だけではなく、象徴的な意味があるのだよね、というような割と大事な言葉なので、「伝える」という出来上がってしまっているものを伝えるというニュアンスがにじむような気がするんですね。どちらかとかと言うと。何か違う言葉があるのじゃないのかなという指摘だけですみません。

○奥村誠会長

何だろう。「受け継ぐ」かなあ。「つくる」かなあ。

○渡邉浩文委員

いろいろな言葉があり得ると思うのですが。

○奥村誠会長

「つくる」は何か勝手に変えてしまうようなイメージがあるから、どちらかというと真の、本当の価値をきちんと理解をして自分もそれに適ったようなやり方を身につけながら次に伝える、そういうイメージですよね。だから一子相伝ではないけど、伝統文化を伝えますみたいなものに近いようなイメージなのですけど。「受け継ぐ」は少し受け身的すぎますかね。漢字だと「継承」なのですけど。資料をつくるときに、７つの視点を書いたときに漢字と仮名を組み合わせた表現で統一したいというのがあって「伝える」になっていますけど、「継承」に値する「受け継ぐ」なのかなあ。そういう感じですね。

菊地委員さん、どうぞ。

○菊地崇良委員

例えば、「紡ぐ」という言葉も１つの案としてあるのではないですかと思いまして、発

言しました。

○奥村誠会長

検討しましょう。表現のところはなかなか難しいのですけども。

そのほかいかがでしょうか。飯島さん、どうぞ。

○飯島淳子委員

全体を通じて２点と個別論点１点を申し上げたいと存じます。

まず、視点①から⑦を通じて最初に掲げられている「視点(未来の状況)」は、今でも言えるし何十年先でも言えるようなものが非常に格調高く書かれていますが、総合計画は、この 10 年を期間としていることからすると、10 年後の目標あるいは 10 年間でやるべきことをもう少し具体化することもあり得るのかと思います。

また、それぞれのところにデータが載せられておりますけれども、このデータはおそらく客観的な現状を示すという意味合いであるとは思いつつ、若干気になりましたのが、例えば視点④の「仙台市の待機児童数」、「仙台市の不登校児童数」です。基本計画にＫＰＩを盛り込むかはこれからの議論であるとしましても、仮に実施計画のレベルであれＫＰＩというものを念頭に置いたときに、これらが果たしてここで最初の段階で打ち出しておくべきデータなのか。同時に、不登校児童数は減った方が子どもにとっては望ましいけれども、子ども本人にとっては非常に深刻な事態であるということからすると、これを載せること自体が「不登校という状態が問題である」というメッセージ性を帯びてしまわないか、懸念しております。

以上が全体を通じてですけれども、個別的に質問も兼ねてお伺いします。視点②のところで、「施策形成の背景」とありますが、果たして「施策」と呼べるようなものが書かれているのか。「取り組みのイメージ」のところでも、例えば、外国人の受け入れ体制をどうするのかは具体化の必要に迫られている時期であるということも考えますと、もう少し書くことはできるのではないかとも思います。１つ質問としましては、「共生社会」という言葉が資料２－１のキーワードの⑤にある一方、④には「地域共生社会」という言葉がサブキーワードになって出ております。これらはおそらく違う意味として用いられているのだろうと理解いたしました。「地域共生社会」というのも厚生労働省が最近になって打ち出した地域づくり、地域住民集団に関わる社会的包摂ということかと思いますが、視点②の「共生社会」というのは、ここを読む限りでは個人を基礎としているのかとも思います。どのように理解すれば良いのか、ご教示いただけるとありがたく存じます。

○奥村誠会長

事務局にお願いできますか。難しいですけれど。

○梅内まちづくり政策局次長

ご質問のあったところについては、今事務局が考えておりますので、しばらくお待ちください。まずは視点④のデータのところについて今飯島委員からご指摘があったことにつ

いてなのですが、たしかに今回これを新しく加えましたので、私どもとしても少し練り込みが足りないかなと思っております。前の審議会でもご指摘ありました通り、いじめであるとか不登校への対応を目指していくというのがまず喫緊に求められておりますが、先ほど舘田委員の方からもありましたけども、若い方々に仙台を選んで働いていただいて、そして是非仙台で産み育てたいと思ってもらえるようなまちにしていくという内容が必要だと思っております。今の資料にはデータも含めて最近ご指摘の多いマイナスの部分をなんとか防ぐというようなことが、ここの記載内容については少し多いかなあというふうに、先ほどからのご議論を聞いていて感じておりました。トーンについては、会長の掛け合わせの話もありますので、そういったことがうまく生きるように、特にこの視点④について少し見直しをしてまいりたいと思っております。

○松田政策企画課長

先ほどのいわゆる「共生社会」。視点②の「多様性」「共生社会」ということと、資料２－１にあるキーワードの中の上から４つ目、「地域生活支援」の中の「地域共生社会」の違いということであろうかと思います。共生というのは視点②の中で多様性が活きるという形で書いておりますけれども、おっしゃる通り、より広いと言いますか、より良い社会のために多様性を活かしていこうということで、個人の考え方であるとかそういったことに着目をしているのがこの視点②で言っているところのいわゆる共生の観点になります。この資料２－１のワードとして書いてある「地域共生社会」は、④の中に「地域生活支援」ということで括られているので、どちらかというと狭い範囲で、地域の中で共に生きていきましょうという持続的な地域社会という観点でのワードとして現時点では整理させていただいているところでございます。分かりづらくて大変申し訳ありません。

○奥村誠会長

すぐ横を見ると実は次のキーワードも「共生」で、⑤は共生社会で「共生」がいっぱいあって、どこにも実は重要な考え方だというのを表しているって言ったらその通りなのだけれども、乱発気味なところが少し感じられますね。少し整理が必要かもしれません。

ありがとうございます。そのほかどうでしょう。

永井委員さん、どうぞ。

○永井幸夫委員

僕は小児科医なものですから、前回の審議会を欠席している間に子どもたちの話を一生懸命皆さんしてくださったことを非常にありがたく思いました。１つ先ほどの「産み育てる」ということで、「産めよ、増やせよ」という感覚があるからいろいろ問題なので、要するに「このまちで産んで良かった、このまちで育てて良かった」というまちであればよろしいのではないかなと思うのです。やっぱり仙台というまちで子どもをつくって育てると、そういうまちになれば非常にいいのではないかと。だから「このまちで産んでよかった、このまちで育てて良かった」というまちに是非してほしいなという思いがあります。

それからもう１つは、何回も「たくましく」と書いてあるのですけれど、この「たくま

しく社会に羽ばたく」、「たくましく生きる力」というのは、ボディビルのようなイメージを受けました。何が「たくましく」なのか。子どもたちに向かっての表現としてはわかりづらいのかなと思いました。「心身ともにたくましく」ぐらいだったらいいのですけど、「たくましく」だけだとどうもニュアンスとしていかがなものかなと思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。姥浦委員さん。

○姥浦道生委員

視点⑦「躍動する仙台を創る」の【賑わい創出】に、定禅寺の活性化と本庁舎建て替えを契機としたというのが 13 ページにございますけれども、もう１つ重要なのは仙台駅の周辺をどうするのかというところだと思っています。これはある意味老朽化した建物を更新という話なのでしょうけれども、単純に敷地単位で老朽化したものを更新するという話を越えた、駅前全体をどうするというところにもたぶんつながってくるかと思いますので、仙台駅前は「玄関口の玄関口」のようなところで非常に重要な部分だと思いますので、そこについては「仙台駅」という場所の名前をきちんと入れた方がよろしいのではないかなという印象を受けました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。やしろ委員さん、どうぞ。

○やしろ美香委員

私からは子どもの学びのところでちょっと述べさせていただきます。この文面を見ていると、学びの環境をつくるということに視点があるように見えます。たしかに安心して学べる環境を整えるのは重要なことです。不登校の子どもたちも学校に戻って卒業してくれればいいなということでたぶんこういう数字を出されていると思うのですが、本来の学びの質についての記載がないように思います。今後も学習指導要領が変わって新たな学びの内容が出て来たりとか、やはり学びというのもどんどん変わっていきますので、その学びの質のところについても少し言及されてみてはいかがかと思いましたので、ご検討ください。

○奥村誠会長

ありがとうございます。では榊原委員さん。

○榊原進委員

３点あります。１点はちょっと全体的なところで飯島委員と同じ感覚を持っていて、このグラフが何を言いたいのかが逆に分からなくて混乱するため、今の段階で入れなくていいのではないかと思いました。個性的なことを言っているグラフと課題的なことを言っているグラフと、何を言いたいのかが分かりにくいので今の段階ではなくてもいいかなと思

ったのが１点です。

２点目は７ページ目の「取り組みのイメージ」です。「杜の都の資源のさらなる活用」というところがあるのですが、活用する前にたぶん計画的な資源の管理なり、あるいは一定程度の更新というものも必要になってくると思いますので、活用する上での前提条件としてそこを入れてほしいと思いました。

３点目ですが、資料の２－１で、今回配っていただいた仙台市経済成長戦略にもあるキーワードを２、３入れていただいたんですが、地域経済的な要素が少ないなと思います。生産性向上だとか都心活力という意味で経済的な要素はあるのですが、経済戦略には地消地産というような表現も出ていますし、できれば地元で経済が循環するという要素を少しキーワードの中に盛り込んでほしいなというのが３点目です。

また、先ほど「仙台で育つ」の中で「たくましく」という表現のところの発言があったのですが、これからの時代は「しなやか」でもいいのかなと思いました。

○奥村誠会長

そのほかいかがでしょうか。今委員さん、お願いします。

○今里織委員

私からは 12 ページです。「仙台で働く」というところの文章の全体で受けたイメージなのですけれども、今、東日本大震災以降、「施策形成の背景」の中段くらいに地元企業の成長資源ですとか、日本一起業しやすいまちということを掲げているからということもあると思うのですが、起業する方に対してそれを後押ししますというようなイメージが全体から受けられるのです。実際のところは今企業ですでに働いていてずっと働き続ける人たちが市民の中では数が多いと思うので、そこの視点も少し盛り込んだ方がより自分に対して身近に感じる計画になるのではないかなと、そんなところを感じました。

次の 13 ページの「躍動する仙台をつくる」というところもビジネス面においてというような記載がありますので、その辺も踏まえて、ちょっと書きぶりとか起業というところを少し弱めるだけでもイメージがだいぶ違ってくるのではないかと思いましたので、イメージを伝えるだけで大変申し訳ないのですが、そのところも検討していただきたいと思います。

○奥村誠会長

はい。ありがとうございます。今野彩子委員さん、お願いします。

○今野彩子委員

私も「仙台で働く」というところの 12 ページについて３点申し上げたいのですが、１点目が先ほどありました経済成長戦略を見たときに、仙台で仙台のまちとしての経済を考えたときに一番大事なところは、経済成長と社会課題解決の両立というところ、震災を経験した私たち地元企業ならではのところなのではないかなというふうに思っていまして、これを総合計画の方でも反映した内容にしたいなと思っております。

それから「働き方改革」というキーワードを資料２－１のところからずっと入れていただいていまして、今更という意見で申し訳ないのですけども、10 年間の計画と考えたときにいつまでも働き方改革をやっていたらだめかなと思っていました。それはどういった言葉かなと思って考えたときに、「働き手にとっても企業にとっても持続可能な魅力ある働き方」みたいな表現になるといいかなと思っているのが２点目です。

３点目は、「働き方改革」とは結局手段だと思うのです。「働き方改革」をすることによって多様な人材が活躍できるようになる。その結果イノベーションとか競争力が強化されるという、そこの目的をきちんと書く、そこにつなげた書き方にするべきかなと。そう考えたときにこのページが「働く」で終わってしまうことがどうなのかなと思っています。それがたぶん項目がまたがるというところの、またがっていかなければいけないという難しさなのかなと思います。後は、項目立てとして、「働く場所として選ばれる環境づくり」でとどまらないで、選ばれることによって競争力が高まる、それによって視点⑦の「躍動する仙台」につながると思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。小岩委員さん、お願いします。

○小岩孝子委員

10 ページに戻ってしまうのですけど、視点④のところで仙台で育つというのがちょっと違うのではないかとおっしゃった方もいるのですが、ここでは「仙台で育む」プラス子どもたち自身にもこの 10 年間を見てもらいたいなと思うのです。10 年間を生きてもらうために、「仙台で育つ」という視点がやはりどうしても必要かなと思っているところです。そして、「施策形成の背景」の３行目にある「切れ目のない子育て支援」という視点が一番大切なのかなと思っているのです。３歳７カ月健診くらいまでは保健センターなど行政が把握しているところがあるのですが、その後、幼稚園、保育所、小学校、中学校と行くにしたがって、きちんと切れ目のない子育て支援をしていかないと、やはり一番心配なここに出ている不登校の子とか、いじめの問題とかで子どもたちが前を見られないことが増えていくのではと感じています。ここにある不登校の児童数のデータからもわかると思います。不登校の子が悪いわけではなくて、こういう子どもたちを周りで学校と地域と連携しながら、家庭と連携しながら育てていくというところが、そしてその中で子どもたちが育つということが 10 年間非常に大切なのかなと。今そういう仕組みをきちんと作り変えていかないと、それこそ子どもたちが大きくなったときに「働く」ということも考えないでしまうのではと案じています。その辺のところをもう少し入れていただけたらなと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほか。

鎌田委員さん。

○鎌田城行委員

今の発言に関連してですが、なるほどと思ったのはその「切れ目のない子育て支援」といったときの、その前にかかる妊娠期から出産子育て期にわたるといったときの子育て期というのはいつまでを言うのかなと改めて考えさせられました。というのは、やはり親にとって、子どもはいつまでたっても子どもであり、子どもから見たときには、親は死ぬまで親であるというその観点から言ったときには、一生つきまとうというか一生考えていくべき、また経験していくべきものであると。そういう観点からの何かしらも大事なのかなという感じがいたしました。そういう点で近くの委員の方々から聞こえてきたのはペアレンツトレーニング的な、親そのものの教育的な視点も実は子育てに重要なのではないのかという意見でした。そうしたことが盛り込まれたところがあればいいのかなと感じましたので、意見として一応申し上げます。

○奥村誠会長

菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

まとめていくつか。一部について今発言がありましたが、10 ページにいじめの問題やさまざまな子育ての問題点とあります。そこで皆本当は必要だけれども言わないのは、家庭教育の大切さです。学校教育と家庭教育というのは両輪の輪であるというけれども、しかし家庭教育の部分についてなかなか言及されません。本当はそこは避けて通れないので、ここの中に私は入れる必要があると思います。これだと家庭教育を周りで支えるけど家庭教育自身の在り方についてはスルーしているので、ここは入れるべきと思います。

それから 13 ページです。「民間投資の呼び込み」とあるのですけど、今回全体を通じていろいろなことをやれればいいのですけども、人口減少で税収が減って財源が厳しくなるという中において持続可能な都市経営をしていかなければならないわけであります。それは都市経営、資料２－１の左の下の横断的事項にいずれ入ってくるべき事項だと思うのです。それを考えたときにですね、13 ページの「民間投資の呼び込み」とありますが、ＰＦＩとか、ＰＰＰの手法なんかも想定しての書き方なのですかというのを事務局に確認したいと思いました。

それからもう１つ、先ほど来お話がありました資料２－１のキーワード④の「地域生活支援」の「地域共生社会」の言葉がかぶるという件です。「杜の都」と一緒で広義と狭義とで意味を変えて使うのは非常にこれややこしいので、やっぱり変えるべきだと思っておりまして、今まで全部の１ページから 10 ページまでの字面を見ると「地域共生社会」というのは、いわゆる「協働」のことを指しているのだと思うので、そういった文言の適用についてもう一回見直していただきたいと思いました。

○奥村誠会長

事務局からお願いします。

○松田政策企画課長

今、事務局に確認というところがありました。視点⑦の【開発誘導】の「民間投資の呼び込み」のところにそういった民間との官民連携の手法まで含めているかと言われれば、この字面だけを見るとそこは少なくても明確には含まれていないというところがありますし、事務局もそこまで実は想定して「民間投資の呼び込み」というワードを使って書いたわけではないので、今後検討させていただければと思います。

○奥村誠会長

では舟引委員さん。

○舟引敏明委員

１点だけです。当初どなたかご発言されましたけれども、歴史文化の話なのですけれども、よそ者から見ても、これだけ皆さん歴史、伊達のお殿様が出てきて誇りに思っているところに、こんなにも書かなくて大丈夫でしょうかと思います。「杜の都」の中に含まれてしまうのだと思うのですけど、一番最初から気になっていたのは言葉で、「歴史的文化資源」という言葉に統一しましたとおっしゃっていたのですけども、「資源」というのは何か眠っていてこれから開発するものを普通は言うので、やっぱりどちらかというと、ここは「資産」であって、受け継いだ貴重なものなのではないだろうかという観点でやっぱりすぐに何をどうするということではないのですけども、きちんと尊重して受け継いで残しますよという心をどこか最初のところにでも書いておいた方がいいのではないかと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。目途と言っていた時間が迫ってきておりますが、後悔することのないように。

浜委員さん、どうぞ。

○浜知美委員

視点①で「世界に類のない個性的な都市ブランドの確立を目指します」と書いてあるのですけれど、これって実はすごく大きいことで、どこまで実現できるかは分からないのですが、ただ今私は観光を発信する仕事を、多言語で発信する仕事をしていて、やっぱり大阪とか京都とかそういうところに仙台、東北は負けているという事実があるので、「躍動する仙台をつくる」の部分にも、そういう「世界に類のない」とかちょっと高い目標を掲げるのが私は交流人口を増やす意味でもいいのではないかなと思っています。

先ほどお話があったように、歴史、文化資源を活かすというところでも「世界に類のない仙台をつくる」というところにつながってくると思うので、そういった文章を入れるのがいいのではないかなというふうに思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。ご意見をいただけていない阿部先生、今日はよろしいですか。
折腹副会長さん、どうぞ。

○折腹実己子副会長
９ページの視点③の「地域で暮らす」というところですけれども、最初の３行目の「地域で安全に安心して暮らせる」というところに、「地域で暮らす」というのはとても大事だと思うのですけれども、幸せであるとか、健やかであるとか、家族とのつながりとかそういったものを大切にしながら暮らしていけるようなことをイメージしてもらえれば。地域でお互いに支え合うのは当然なのですけれど、まずは家庭の中での支え合いというか、つながりとか関係性とか、そういったものをもう少し良くしていくと幸せかなあと感じましたので、そのところを入れていただくといいかなあと思いました。

○奥村誠会長
ありがとうございます。今野薫委員さん、ご発言はよろしいですか。はい。
その他の委員の方は私のチェックではだいたいご意見いただけているように思いますけども。
佐々木委員さん、どうぞ。

○佐々木綾子委員
すみません最後に１点だけ。最後の話になってしまうと思うのですけれども、やはりこれをつくった後にはやはり皆さんにいかに自分ごととしてとらえていただいて、本当に一緒につくっていけるかといったところが肝になってくるのかなあと思いまして、私もいろいろ調べていたら福岡県の水巻町ですね。水巻町では総合計画を絵本にして冊子にしているのです。『水巻未来図鑑』と言って、小さいお子さんからご年配まで、かわいいイラストにしてストーリー仕立てで書いてあってこれをみるとよく分かりますし、面白くて読みたくなるような仕掛けになっています。
今これを読ませていただいて、私も何回も読んで頭に入るところがあるので、やっぱりどういうふうに伝えていくかという今後の話にはなってくるのですけども、こちらをご紹介させていただきました。

○奥村誠会長
榊原委員さん、どうぞ。

○榊原進委員
先ほど菊地委員が都市経営という話をされていましたが、視点の８つ目に「仙台を経営する」という視点を入れたらどうかと思いました。市民協働だとか官民連携だとか手法の話だとかはたぶんそれぞれの視点にエッセンスとして入っているとは思うのですが、それらを実現する手法として市民協働という言葉が今回あまり入ってないなと思い、経営する視点を入れてはどうかということで、これはご提案でございます。

○奥村誠会長

最後に７つを８つに、という意見が出てきてびっくりしました。検討させてください。

感想ですけども、教育の話とか特にそうなのですけど、住まい方のところも本当はそうなのですけど、従来型の家族像というのがあって、そこでまずそれがしっかりしてなければみたいな話がございました。それを書くのか書かないのか、そのもともとそういう条件でない各家族の姿というのが実はかなり多くなってきているときに、まず従来の姿がベースでしょうと放り投げていいのかどうか。結構悩ましいところがあります。これはちょっと難しい点だなと思いながら聞いておりました。考えさせていただきたいと思います。

次回は本日のご意見を踏まえまして修正版をお示しして、取りまとめを公表できるような形に持っていきたいと思っております。

(3) 平成 31（2019）年度　審議会日程について

○奥村誠会長

では議事の第３「平成 31（2019）年度　審議会日程について」です。

事務局から説明をお願いします。

○松田政策企画課長

それでは資料３の審議会日程案をご覧いただきたいと思います。こちらは今後の審議会の開催日程とおおむねの審議の内容、こちらは目途として、お示ししております。第１回でもお示ししておりますけどもそれを修正させていただいたところでございます。実は１回多く開催をさせていただきたいと考えておりまして、具体的には平成 31 年度の部会に入る前には本当はあと１回だったところを、５月と７月に２回というところで書かせていただきました。本日いただきましたご意見を踏まえて次回また修正をさせていただきますけども、そこを踏まえてもう１度確認の場があろうかと思いまして、全部であと部会に入るまでにあと２回というふうに考えております。ご多忙のところ大変恐縮ではありますがご協力をよろしくお願いしたいと思います。なお、次回の５月 27 日の第５回審議会には審議経過についての修正版をお示しして、大枠の取りまとめをしたいと思っております。後は前回ご質問がありました部会については構成案をお示しして、委員の皆さまにご参加いただく部会の希望についてもお伺いすることとしたいと思っております。

部会については今日お示ししました重点的な取り組みの７つの視点を一定の分野で分ける形で会長ともご相談の上お示しをさせていただきたいと思っております。第６回が７月上旬というところで審議経過についてのいったんの最終確認というところと、それだけではなくて部会を今後進めていくというところなので、その移行に当たりまして 30 人の委員の皆さまをいくつかのテーブルに分け、そのテーブルごとに意見交換をしていただく、テーブルに分かれてのディスカッションをしていただきたいと考えております。より深い議論ができるかと思いますので、そこを踏まえていよいよ部会の方にといった流れを考えているところでございます。

○奥村誠会長

今の説明について質問がありましたらどうぞ。よろしいでしょうか。

（了承）

では基本的にはこの日程案で進めたいと思います。そして本日議論いただきました審議結果の取りまとめについての議論というのがあと１回しっかりやると。７月の審議会で正式に決定するというようなことになります。

(4) 平成 31（2019）年度　市民向け広報・市民参画事業について

○奥村誠会長

それでは第４の議事「平成 31（2019）年度　市民向け広報・市民参画事業について」です。

事務局から説明をお願いします。

○松田政策企画課長

最後の資料４をご覧いただきたいと思います。こちらが平成 31 年度の市民向けの広報と市民参画事業をまとめたものでございます。さまざまな媒体、市政だよりをはじめ新聞であったりホームページ等々、若い方にも把握していただきやすいような媒体も使いながら、あらゆるタイミングをとらえて、審議の状況をお示しするとともに市民参画事業の方も展開してまいりたいというふうに考えております。

前回ご意見ありました本市職員の間でも総合計画のディスカッションをしていった方がよろしいのではないかというご意見につきましては、現在職員研修などの機会を活用した取り組みができないかということで庁内で検討させていただいているところでございます。以上です。

○奥村誠会長

事務局からの説明について質問がありましたらどうぞ。よろしいでしょうか。

（了承）

ではこれをもとに来年度の市民参画広報を進めていただくということで決定したいと思います。

(5) その他

○奥村誠会長

最後に「その他」ですけども、委員の皆さんから何かございますか。

よろしいでしょうか。

3　閉会

○奥村誠会長

では本日の議事は以上で終了といたします。

最後に事務局から連絡事項をお願いします。

○松田政策企画課課長

１点ございます。今日の座席表の裏面に次回の審議会の日程を書かせていただいております。確認でございます。５月 27 日月曜日 18 時からということで、場所の方は追って決まり次第ご連絡申し上げたいと思います。

○奥村誠会長

それでは以上を持ちまして本日の審議会を終了といたします。

本日はありがとうございました。